

英国における企業報告 - XBRL活用の成功事例

英国では企業報告にXBRL（拡張可能な事業報告言語、eXtensible Business Reporting Language）を使用することで大きな成功を収めており、毎年、190万もの英国の企業がXBRL形式で決算・法人税申告を行っています。

英国の手法では、XBRLを使用することで包括的かつ効率的な報告が低コストで可能になっています。XBRL形式の報告書には規制当局やその他の利用者による分析や比較に必要なデータがすべて含まれており、企業側はXBRLを自社に合わせて「拡張」する必要がありません。

「Inline XBRL」という報告形式と、XBRL内のデータを包括的に理解することが可能な詳細タクソノミを使用したことがこの成功の礎となっています。

このホワイトペーパーでは、英国でのXBRLプログラムとその成功を支える要因について紹介します。

目次

1.	はじめに	1
2.	主な特徴と利点	2
3.	英国でのXBRLによる申告	4
3.1	英国でのXBRLの使用	4
3.2	iXBRL報告の作成	5
3.3	英国におけるタクソノミと会計規制	5
4.	Inline XBRLの役割	7
5.	タクソノミの設計とXBRLの目的	9
5.1	英国での取り組み	9
5.2	その他の取り組みと企業による拡張	9
6.	英国タクソノミの設計 - 目標と要件	11
6.1	主な課題	11
6.2	タクソノミの適用範囲	11
6.3	分析のためのデータの一貫性	12
6.4	完全データモデル - 企業による拡張を阻止	12
6.5	事業要件と費用の問題	12
7.	英国タクソノミの設計 - 主な特徴	13
8.	タクソノミの表示	16
8.1	表示ビュー	16
8.2	ディメンションの表示	17
8.3	ラベル	18
8.4	英国タクソノミの閲覧	18
9.	タクソノミのディメンション	19
9.1	ディメンションの範囲	19
9.2	ディメンションの使用	19
10.	包括的なタグの実現	21
10.1	はじめに	21
10.2	分析項目	21
10.3	非標準ディメンションタグ	22
10.4	汎用ディメンションタグ	23
10.5	グルーピング	24
11.	その他のタクソノミの特徴	25
11.1	ガイダンス情報	25
11.2	テキストのタグ付け	26
11.3	技術的特徴	26
12.	タクソノミの構造、適用範囲、開発	28
12.1	構造と適用範囲	28
12.2	今後の開発	29
12.3	開発プロセス	29
	用語集	30
	XBRL UK会員	33





1. はじめに

このホワイトペーパーでは、英国での企業の財務報告においてXBRLが優れた成功を収めた事例について説明します。

英国では毎年、190万もの企業がXBRL形式で決算・法人税申告を行っており、申告数という点では英国のXBRLプログラムは世界最大規模になります。

このプロジェクトでは、包括的な企業の財務情報を「インテリジェント」で簡単に分析可能な電子形式で税務当局（HMRC）と法人登記当局（Companies House）の双方に提供しています。後者では、このXBRL形式の企業データを投資家や個人に無償で公開しています。

この英国での事例で、XBRLの利用は費用対効果も高く有用であることが証明されました。各企業がXBRL形式で申告を行う費用は、同様の他のプロジェクトよりもはるかに少なくなります。

このホワイトペーパーでは、英国のXBRLプログラムの**主な特徴**と、計画を成功に導いた**重要な要因**を紹介します。この文書は財務報告にXBRLを利用することに興味があるすべての人を対象とします。特に、企業報告においてXBRLを利用する同種のプロジェクトを遂行中または着手している人にとって、役に立つ背景知識も提供されます。

読者にはXBRLの性質や目的についての基本的な理解があることを前提とします。XBRLの概要については、XBRL internationalのWebサイト (<https://www.xbrl.org/>) をご参照ください。

この公表物の内容についてさらに詳しく知りたい場合は、XBRL UKの次のEメールにお問合せください。 info@xbrl.org.uk



2. 主な特徴と利点

英国でのXBRLの成功には、2つの主な特徴が寄与しています。

- **報告におけるiXBRL (Inline XBRL) 形式の使用**

iXBRLを使用することにより、すべてのXBRLデータは人間が判読可能な通常のファイル形式で保存され、かつ、これらのファイルはWebブラウザで表示可能なHTML形式で表示することができます。その結果、単一のiXBRL形式による報告書は、画面で表示したり印刷したりすることが可能な標準的な財務情報として、また、ソフトウェアによって自動的に分析できる「タグ付き」のXBRLデータとして、それら両方の役割を果たすことが可能になります。

そのため、各企業はその財務情報を自由な形式で公開することができます。XBRL形式の申告書を人間が判読可能な形式に変換するために新たな仕組みを追加する必要がないため、複雑性やコストの削減にもつながります。

企業は通常の方法でその財務情報を作成し、報告内にはソフトウェアを使用してコンピュータが判読可能なXBRLタグを組み込むだけです。この財務情報は、この時点でXBRL形式で「タグ付け」されていると言えます。

- **革新的な英国タクソノミの設計**

タクソノミとは、XBRLの「辞書」のようなもので、財務データを構成する個々のデータをコンピュータが識別するためのタグを定義しています。タクソノミの設計は、タグ付けされたXBRL形式のデータの範囲、効率性、有用性を決定するために不可欠なものです。

英国のXBRLタクソノミでは、さまざまな技法を使用して、特に企業固有で普段使用しないような予期できない情報を含む包括的な範囲の財務データに対して、**簡単、迅速かつ一貫性**を持ったタグをXBRL形式で付与することを可能にしています。

上記2つの要素を一緒に取り入れることで、次のようなさらに大きな利点がもたらされます。

- **英国のXBRL形式による申告では企業固有の拡張タクソノミは不要**

一部のXBRLプロジェクトでは、企業は「企業拡張タクソノミ」を作成し、企業独自の情報を扱ったり、人間が解読可能な形式で財務情報を作成したりする必要があることがあります（拡張タクソノミでは、タグを追加したり、国家機関またはそれと同等機関によって公開された基本タクソノミを修正したりします）。

英国のこのプログラムでは、そのような拡張タクソノミは必要ありません。iXBRLを使用するということは、報告がすでに企業が必要とする情報を含めた形で表示されることを意味します。そのため、企業独自の事情に合わせた拡張をして、XBRL形式のデータ集合を可読形式に変換する必要がないのです。英国タクソノミで使用された革新的な技法では、企業固有のXBRLタグを追加することなく、財務データに対して包括的かつ一貫性のあるタグ付けをすることも可能です。

このように拡張を防ぐことにより、企業はコストと労力を大幅に削減できます。また、企業による拡張によって比較および分析作業が非常に煩雑となることも防ぎます。

これらの2つの特徴により、英国のXBRLプログラムでは次のことが可能になりました。

- 企業の財務情報の分析および比較に関するすべてのデータを、明解かつ正確にXBRL形式で確実に表現する。
- 理路整然かつ一貫性のあるXBRL形式のデータを準備することで、企業の財務情報に対する実用的、効率的、かつ有用な分析および比較を可能にする。



- XBRLをより簡単に使用できるようにしながら、報告企業やその他の利用者のコストや労力を削減し、情報の生成者や利用者の双方に対して不要な負荷を押し付けることなく、政府機関をはじめとする機関に金額に見合った価値を提供してプログラムをサポートする。

これらの技術的特徴の根底にあるのは、英国の**XBRLの管理と使用における機能を統合させるという手法**です。タクソノミの開発を統括する委員会には、政府の代表者、規制当局、その他の公的サービス機関、監査法人、ソフトウェアプロバイダーなどが集結しています。

英国プログラムの実践的な機能と、iXBRL実装の容易さにより、**幅広いソフトウェア企業がXBRL形式の申告のためのアプリケーションを提供できるようになりました**。利用者はツールや技術サポートを選ぶことができるのも利点です。

次の項、[第3項](#)では英国のXBRLプログラムの適用範囲と特質について説明します。

[第4項](#)ではInline XBRLについて概説します（また別のドキュメント『Inline XBRL - Saving cost and effort for company reporting (Inline XBRL - 企業報告のコストと労力を削減する)』でInline XBRLの特質、使用、利点について詳説します）。このドキュメントはXBRL UKのWebサイト (<http://www.xbrl.org.uk/>) にて確認できます。

[第5項](#)では、英国タクソノミを設計する際の根底にある全体原則についてと、ソフトウェアによって財務データの処理および分析を自動化するというXBRLの目的がそれらの原則とどう関係するのかについて説明します。また、企業レベルでのタクソノミの拡張を防ぐ理由についても述べます。

[第6～12項](#)では、英国タクソノミの設計、利点、開発について説明します。

タグ付けに関するガイドや開発者ガイドを含む、タクソノミの技術詳細については、英国のFinancial Reporting CouncilのWebサイト (<https://xbrl.frc.org.uk/>) にて確認できます。

最新の英国の財務タクソノミはインターネットで閲覧できます (<https://uk-taxonomies-tdpcorefiling.com/yeti>)。このページでは、各タクソノミの「表示ビュー」が個々のタグの詳細情報とともに表示されます（タクソノミの全機能が表示されるわけではありません）。



3. 英国でのXBRLによる申告

3.1 英国でのXBRLの使用

2011年4月から英国の企業は年次報告書と法人税を**税務当局、HMRC**に対して提出および申告することが求められています。現在では190万もの企業が毎年この情報を申告することに成功しています。

申告される財務情報には、大企業の複雑なものから小規模な企業の簡易な報告書まで多岐にわたります。財務情報のレイアウトは規定しないという原則に基づいた会計基準に従って申告が行われるため、それらの申告書は形式や表示がかなり異なります。多くの申告書は英国会計基準（UK GAAP）に従っていますが、大企業の中でも少数の企業ではIFRS（国際財務報告基準、International Financial Reporting Standards）に従っているところもあります。

XBRL導入を容易にするための譲歩策として、HMRCでは当初は内部的に「タグ付けの要件削減」を設けていました。それにより、企業は英国タクソノミの完全なタグ集合を使用するのではなく、個数が削減されたタグ集合を使用することが可能になりました。しかし、HMRCでは完全なタグ付けを推奨していたため、多くの企業や監査法人では削減されたものではなく完全なタグ集合を使用していました。最近のタクソノミでは、すべての企業は完全にタグ付けされたデータを提出することが求められています。

HMRCではXBRL形式のデータを使用し、財務情報や法人税申告の評価や、税におけるリスクやポリシー決定の支援、法律上の課題に対する結果の判断、事業数の把握に役立てています。HMRCによると、iXBRLによる申告は大成功を収めていると言います。

最近、HMRCは「iXBRLによって、納税者の基本的な理解が促進され、より適切な支援対象を見つけることが可能になり、事務的なリソースが削減されて正確性が向上し、コンピュータによる分析ツールによって財務情報や計算データが使用可能になる。XBRLのタグ付けデータは有用な情報だ。これからは増々HMRCのコンプライアンス保証、リスク評価、分析機能に集権化されてデータが活用されていくだろう。」と述べました。

英国法人登録局である**Companies House**では、あらゆる英国事業体から財務情報を収集し公開していますが、ここ10年間は任意によるXBRL形式での財務情報の提出を推奨してきました。2005年、Companies HouseはXBRLの標準的なパターンに従った小規模企業による簡単な財務情報の受付を開始しました。2011年には、iXBRLによるすべての財務情報を対象とするようにシステムが更新されました。

現時点で70%ほどの英国企業がCompanies Houseに対してXBRL形式による申告を行っており、その割合は徐々に増加しています。

2013年には投資家、金融機関、民間企業にメリットを享受してもらうため、Companies Houseが受領したすべてのiXBRL形式の財務情報の公開が開始されました。現在このサービスでは英国企業のデータを検索および比較するためのさまざまなインターフェースがサポートされています。英国政府は、このサービスは「起業家、納税者、民間部門を問わないすべての人にメリットを - データの効率性が改善することで、イノベーションが促進され、よりよい公共サービスの提供と新たな財源の流れによって成長を活性化する」というオープンかつ透明性の高い情報公開の英国の方針を代表するものだと述べています。

政府の他部門と公共機関ではXBRLプロジェクトが実施されたり、積極的に計画されたりしています。Charity Commission（イングランドとウェールズのチャリティ活動管理団体）のような一部の団体は新たなXBRL形式の会計報告に関与しており、その他のプロジェクトでは、すでにHMRCやCompanies Houseに提出された財務情報の共有および使用が行われています。



3.2 iXBRL報告の作成

英国の会計および税務ソフトウェアでは、すでにiXBRL形式による報告が標準機能になっています。

比較的容易な構造の財務情報を持つ中小企業の財務情報生成ソフトウェアでは、自動的にiXBRL形式の報告が作成されます。利用者は通常と同じように会計データを入力します。利用者にはXBRLの特別な知識は必要なく、XBRLのタグ付けについては意識する必要もありません。この種のソフトウェアは一般的には柔軟性があるテンプレートを使用して会計データに対して適切なタグを「舞台裏で」紐づけています。利用者には、iXBRL形式の財務情報を作成する追加のコストや労力が必要とされる場面がありません。

よく見られるスプレッドシートやドキュメントの形式で管理されているような複雑性が高い会計データを準備する場合、会計データのタグ付けにはタグ付けソフトウェアを使用します。タグ付けソフトには、完全に手動でタグ付けするものや、正しいタグを利用者に自動的に表示するプロセスが一部含まれているものがあります。このようなソフトウェアの利用者にはある程度のXBRLの専門知識が要求されます。

複雑性が高い会計データを持つ大企業では、事前構築されたiXBRL生成機能が社内にある場合や、監査法人やその他の第三者機関に会計データのiXBRLへの変換作業を任せている場合があります。第三者機関サービスのコストは処理対象となる会計データのサイズや項目数によって異なります。しかし、そのコストは企業の拡張タクソノミが必要となるようなその他の同種のプログラムの一般的なコストのうちのほんの一部の割合を占める程度のコストになります。

3.3 英国でのタクソノミと会計規制

2011年に義務化された英国での会計報告は、UK GAAPタクソノミとUK IFRSタクソノミという主に2つのタクソノミ方式で開始されました。UK GAAPに従って申告する企業が大部分を占める中、民間上場会社はIFRSを使用しました。UK GAAPとUK IFRSタクソノミは設計や規模は似ていますが、異なるタグを使用しており、この2つの標準セットで求められる要件が異なることを反映しています。

これらのタクソノミは、XBRL UK (XBRL Internationalの英国における組織) がHMRCとCompanies Houseからの支援を得て開発したものです。タクソノミの所有権は、2013年に英国およびアイルランド共和国で会計基準を定める規制団体、FRC (Financial Reporting Council) に移管されました。

2014年には、FRCから、英国およびアイルランドで有効な新しい会計基準を扱う3つの新しいタクソノミが公開されました。これらのタクソノミを次に示します。

- | | |
|------------------|---|
| Full IFRS | EU採用IFRSに準拠した会計データ用。上場企業の連結決算を主に対象とする。 |
| FRS 101 | 新しいFRS 101会計基準用。上場企業の子会社および親会社を対象とする。Full IFRS準拠で求められる開示規定の一部免除が可能。 |
| FRS 102 | 新しいFRS 102基準用。小規模事業者を除くすべての企業を対象としており、中小企業向けのIFRSを基にしている。事実上、従来のUK GAAPの後継。 |

2015年の開始時点から、「小規模事業者」以外のすべての英国企業にはこれらの基準に従うことが求められています。一部の企業は、すでに早期にFRS 101および102を採用しています。FRCでは、小規模事業者および零細企業向けにFRS 102をベースとした規制も検討中です。この規制では英国とアイルランドに対してIFRSを基礎とした統一性のある基準が提供されます。小規模事業者および零細企業には、追加のタクソノミが開発される予定です。



3つのタクソノミ、**Full IFRS**、**FRS 101**、**FRS 102**はすべてIFRSの原則と概念を基礎としているため、共通の主要タクソノミに基づいています。そのため、これら3つのタクソノミには以下のような特徴があります。

- 共通タグのうち大部分を共有している。
- 同一の設計に従っている。
- 監査報告書や取締役報告書などの標準的な企業情報や報告書にあるものと同じコンポーネントを含んでいる。
- 特定の産業部門を対象とするセクションを含む。

設計やタクソノミの中身は2011年から使用されていた元のタクソノミが発展したものとなり、2011年から2014年の間にXBRLの使用を必須とした初期段階での経験が活かされています。

この文書内の次のInline XBRLに続く後の項で、これらのタクソノミの設計、利点、開発について焦点を当てます。



4. Inline XBRLの役割

Inline XBRL（一般的に「iXBRL」と呼ばれる）形式で準備された会計データは、通常の財務報告と同じように人間が判読可能な形式で表示されます。その会計データはインターネットのページを表示する言語であるHTMLで表示され、その表示形式は企業が公開する報告書と全く同じであり、どのブラウザでも表示できます。

情報の中の特別な項目に付与されるXBRLのタグはHTMLファイルの中の非表示レイヤーに組み込まれます。このタグは利用者が表示したいときはいつでも表示させることが可能で、ソフトウェアによって通常の方法で処理および分析することもできます。

このように、iXBRLではXBRL形式による財務情報の表示と配布を単一のファイルで行います。

それとは対照的に、XBRL形式の情報を配布する別の方法として、生のXBRLデータ行で構成されるファイル（「インスタンスドキュメント」と呼ばれる）がありますが、この方法ではその報告内容を人間が判読できるようにするためには別の仕組みが必要となります。このようなファイルには、表示のための構造を持たないXBRLデータのみが含まれます。この形式のファイルは、表示機能を担う固定されたテンプレートまたはスプレッドシート内のテーブルで完全に報告されるデータには適している場合があります。しかし、柔軟性が高く多岐にわたる形式を持つその他の企業報告やその他の報告を扱う場合には、このタイプのファイルはあまり適していません。

英国のプログラムでは、あらゆる形式に従う企業会計を扱うにはiXBRLが最適なソリューションであることが明らかになりました。このソリューションには、さまざまな大きなメリットがあります。

a. 表示

iXBRLはXBRL報告をそのまま表示するためのソリューションを提供します。利用者はデータの作成者が意図した通りに整形およびフォーマットされたデータを閲覧することができます。追加で表示のための仕組みを実装する必要がなく、それによって複雑性や労力やコストが増加することも防げます。

b. 正確なXBRLのタグ付け

iXBRL報告を表示する際に、関連するXBRLタグも元のテキストと一緒に表示することができます。この機能はXBRL内のタグ付けに正確性および一貫性があるかをチェックするのに大いに役立ちます。

c. 不要なXBRLでのタグ付けを無くし、タグ付け作業を削減

iXBRLではXBRLのタグ付けをすることなく元のテキストのままデータを報告することが可能です。ソフトウェアによる分析および比較に必要なデータにのみタグ付けすればよいこととなります。その他の情報はInline XBRL文書の一部として元のテキストのまま単独に配布されます。データ利用者に転送するためにタグ付けをしたり、会計データを表示するために再作成したりする必要はありません。

この特性により、利用者は、ソフトウェアでの分析には適さないXBRLのタグ付けという苦行を完全に企業独自の補足的なその他のデータに対して行う手間が省けます。たとえば、過剰な量のコンテンツを含む事業評価など、元の形式で読むのが最適でありXBRL表記には適さない長いテキスト本文がある場合は、その大部分または全体をタグ付けしないこともできます。

この技法により、XBRLの実装と使用におけるコストや労力を大幅に削減できます。



d. XBRL導入の段階化と簡素化

規制当局やその他の機関は、初期は限られた部分のデータのみをタグ化しつつ報告全体を受け取るというように、XBRLの導入を段階化することができます。実際の適用状況を見ながら、必要に応じて段階的にタグ付けする範囲を柔軟に拡大できます。この手法で、現場に適した費用対効果の高いXBRLの導入を実現できます。

e. タクソノミの設計とコンテンツの簡素化

タクソノミでは、表示に関する要件に対応したり、通常使用しない企業独自の突飛なデータを「追跡」したりする必要はありません。タクソノミの設計では、自動化された分析に必要なデータのみを対象として設計し、柔軟に対象範囲を調整することができます。この特性により、タクソノミの開発と使用が大幅にシンプルになります。

f. ソフトウェア開発のタスクの容易化

iXBRL向けのソフトウェア開発は比較的単純です。iXBRLでは、その他の手法から複雑化を強いられることはありません。

報告を配布する際にWebブラウザの言語であるHTMLを使用することで、iXBRLではソフトウェア企業が容易に理解できるオープンで無償利用が可能な標準技術を利用していることになり、結果的に開発の費用やリスクを大幅に削減できます。この特性により、iXBRLによる報告の作成と利用に対応するソフトウェア製品が数多く生み出される状況が促進されました。表示や印刷などの標準的な作業は普段使用している既存のソフトウェアで対応できます。

g. 企業によるタクソノミの拡張を阻止

一般的には使用されない企業独自のデータを処理対象とする場合や財務情報の表示およびレイアウトを定義するために使用される企業の拡張タクソノミは必要ありません。

要約すると、iXBRLによってXBRL形式の財務情報の表示問題が解決され、タクソノミのタグ付けおよび設計のアプリケーションも簡素化され、XBRLによる報告のコストと労力も大幅に削減されるということです。



5. タクソノミの設計とXBRLの目的

5.1 英国での取り組み

XBRLの目的は、ソフトウェアによる財務データの自動的な分析および処理を可能にすることです。しかし、特にデータが不完全であったり一貫性がなかったりする場合、この分析が非常に困難であることが判明することがあります。

企業の財務情報は内容も形式もさまざまであるため、データがいかに正確で明解なものであっても、時にデータの比較や分析のための業務上の規則は複雑になります。会計情報の勘定科目は、たとえ同じ事業部門であっても、企業が異なれば全く異なるコンポーネントによって構成され、それに応じて、計算式も異なるものになります。

このような状況であっても、データの定義や関係が明確で不変であれば、複数の企業間に適用される比較および分析のルールを記述することは可能です。そのようなルールには、企業の財務状況の透明性と理解という点で多大なる価値があります。

しかし、データの定義や関係が不明瞭かつ変更が多い場合、利便性が高く本質的なルールを（もし記述することができるのであれば）記述することは決定的に困難になります。

そのため、英国タクソノミでは分析に必要な完全、明瞭、かつ一貫性のあるデータモデルを企業の財務情報に対して提供することを目指しています。

英国タクソノミでは財務情報に使用される必須タグをすべて定義しています。また、タグ同士の関係も固定しました。たとえば、[第7項](#)で説明したように、勘定科目を表しているタグ同士の関係と、データが報告されるさまざまな形式を表す「ディメンションタグ」（一般的には財務テーブルの列）は完全に事前定義され固定されました。

タクソノミの設計とタグ付けのルールでは、代わりの手段がない、**データの個々の勘定科目をタグ付けするための明解かつ正しい唯一の手段**を確実に提供する方法を模索します。

このようにして、分析および比較のルールを強固な基盤上に作成することが可能になります。英国のルールやタクソノミが完璧だというわけではありません。実際に使用すると、当然のことながら使用可能なタグやその構造に欠陥や欠点が見えてきます。しかし、実務経験から言うと、これらの問題は概して些細なことであり、時間の経過とともに対処されていきます。

このようにして英国タクソノミでは、長い期間をかけて徐々に発展し改善されていく企業データの分析と比較に対しての**安定基盤**を作り上げています。

英国の申告では、個々の企業が会計上使用している計算式を表記しようとはしていません。データ利用者には、タクソノミには明解なデータの定義と関係があることを前提として、分析とリスクのルールを自身の目的に合わせて定義することが想定されています。しかし、タクソノミとともに公開された一貫性チェックでは、合計やその他の関係が記述されており、ソフトウェアで正確にタグ付けおよび分析するための基盤が提供されています。

[第6～12項](#)では英国タクソノミの設計について説明します。特に、タクソノミによってXBRLのすべての必須タグを完全に定義しつつ、企業会計で発生する可能性がある無数のバリエーションを持つ形式やコンテンツに対応するための柔軟性を維持するための方法について説明します。

5.2 その他の取り組みと企業による拡張

XBRLプロジェクトの中には、タグの追加や修正、タグ同士の関係の変更によって独自の拡張タクソノミを作成することを企業に許可することで企業会計に存在するさまざまなコンテンツを処理しようと試みているものがあります。そして、そのような企業はこれらの拡張タクソノミを使用して会計情報にタグ付けします。



このようなプロジェクトを評価してみると、たとえタクソノミの種類が多少増えただけでも、データ分析のルールの弱点となり論理が破綻し、データ利用者には多大な労力がかかることになっています。

たとえば、ディメンションタグをほんの少し修正しただけだと思っても、関係や定義によってタクソノミの適用方法が根本的に変わることがあります。

基本タクソノミに重大な追加や修正を加えることになる企業の拡張タクソノミは、このようにして事前に定義された分析や比較に対して深いダメージを与えます。企業は多くの場合、定義によってタクソノミを異なる方法で修正し、その結果として分析用のデータに一貫性が失われます。データ利用者は、関係する拡張タクソノミの特異性に応じてケースバイケースの分析を強いられます。

これは、企業の拡張タクソノミは絶対に使用してはいけなくても正当化できないわけでもありません。ただ、そのような拡張をする場合は、どのタクソノミの修正が許可されたかを管理する非常に厳密に定義されたルール内で実施する必要があるということです。

しかし、この方法も修正が予測可能な場合にしか機能しません。英国のプログラムでは、**タクソノミに柔軟性を持たせることで企業会計での予測可能な変更に対応することが望ましいこと**が明らかになりました。たとえば、拡張を許可するのではなく、[第10項](#)で説明するような「[分析項目](#)」や「[汎用ディメンション](#)」を使用する方法があります。

企業の拡張タクソノミを作成し処理することで、必然的にXBRL形式による報告の申請者と利用者のコストと労力が増加します。申告者には、さらなる専門知識、業務処理、ソフトウェア投資が要求されるようになります。また、データ利用者にも拡張タクソノミの内容を理解し処理する際に多大な負荷を強いることになります。そのため、英国のプログラムでは常にそのような状況を回避するための方法を模索してきました。

この英国のInline XBRL、タクソノミ設計、拡張による手法が、すべてのプロジェクトに適用できるわけではありません。中にはまったく異なる要件や状況で運用が行われるプロジェクトもあります。

たとえば、欧州のEBA (European Banking Authority) 管轄下での金融報告プログラムでは、厳密に定義されたスプレッドシート形式のテンプレートで要件が定義されています。これらのテンプレートでは申告の構成と表示について定義されています。このような申告では報告を表示するためのInline XBRLは必要ありません。

しかしながら、英国のXBRLプログラムで明らかになったのは、Inline XBRLとこのホワイトペーパーで示したタクソノミ設計の特徴を活用することで、XBRL形式の企業の財務報告の申告において非常に強固な成功基盤が形成されるということです。



6. 英国タクソノミの設計 - 目標と要件

6.1 主な課題

英国の会計タクソノミの主な目標を次に示します。

- a. 情報を構成する特定の項目を識別するために必要なXBRLタグを明解かつ正確に定義する。
- b. 既存および将来の利用者によるXBRL形式の報告の自動化された分析、比較、評価に必要なすべてのデータを包括的かつ費用対効果の高い方法でタグ付けすることをサポートする。
- c. 使用方法がシンプルかつ効率的である。
- d. XBRL形式の報告の利用者が簡単かつ効率的に使用でき、正確で一貫性があるタグ付き情報を提供する。

これらの目標には数々の重要な要件や考慮事項が関連していますので、次の項で説明します。

6.2 タクソノミの適用範囲

タクソノミの機能には次の要件があります。

- a. 主要な財務諸表や財務情報に関する注記または脚注の表内にある金額や数字に完全にタグ付けすること。
- b. 財務情報の意味と解釈に重要なすべてのテキスト情報を識別することを目的としてタグ付けすること。つまり、上位のタグ付けは特定のテキストによる文言の存在と範囲を示すものであり、そのような文言を構成する詳細な部分への詳細なタグ付けは必要ないということ。

次のうち少なくとも2つの関連基準が満たされる場合、データはタクソノミ内の詳細な表記からは除外される場合があります。

- i. 企業によってコンテンツと形式がかなり異なる場合。
- ii. 専門性が高い場合（一般事項や部門関連のどちらも場合も含む）。
- iii. 財務情報の利用者などからの自動分析に有用だとは想定されない場合。

これらの要件は自動化された分析および比較に必要なすべてのデータを包括的にタグ付けすることを意図しています。非常に例外的で、企業間での比較に対してもオープンではなく、一般的なアプリケーションや事前定義されたルールセットによる分析に柔軟に対応できない企業独自のデータは意図的に除外されています。

自動分析で実際は使用できないXBRL内の数値データを表現するために費用や実装の負荷を強いることに意味がないというのが英国の考え方です。



6.3 分析のためのデータの一貫性

異なる財務報告間での一貫したタグ付けをサポート対象とするのかどうかをテストすることが英国タクソノミでは重要です。設計が甘いタクソノミでは無計画なタグ定義によって幅広いタグ付けをサポートする場合がありますが、そのような設計によって生成されたデータは、ソフトウェアが効率的に処理できません。

英国タクソノミの設計のねらいは、複数の代替手段があるのではなく、**データの個々の勘定科目をタグ付けするための明解かつ正しい唯一の手段**がある状態にすることです。

この目標は、タクソノミの設計だけではなく、タクソノミに付属する利用者向けのガイダンスも使用して達成する必要があります。たとえば、そのガイダンスでは、財務情報の主要な文言と注記に同じデータが報告される場合に、効率的にタグを正しく選択するためのルールが示されています（英国のガイダンスでは、タグは開示における詳細が意図するレベルや粒度と一致する必要があることが要件になっています。幅広い範囲を統括するタグは、主要な財務諸表に見られるように、全体を効率的に表現する項目に対して使用し、詳細なタグは注記内の内訳に対して使用されます）。

上記は、タクソノミ単独ではなく、それに付属する利用者のガイダンスと照らし合わせて解釈する必要性を強調しています。

6.4 完全データモデル - 企業による拡張を阻止

英国タクソノミは企業独自の拡張タクソノミを作成することなく、必要とされるすべてのタグ付けをサポートすることを意図して作成されています。これは、タグ付けされたデータを簡単に分析および比較でき、タグ付けの作業も費用対効果が高い必要があるという全体目標を反映しています。企業による拡張タクソノミに存在する問題は[5.2項](#)で説明されています。

6.5 ビジネス要件とコストの問題

英国タクソノミの設計と中身は事業での考慮事項と強く結び付いています。

このタクソノミの適用範囲は、データの分析および比較におけるビジネス要件の性質と限度を反映しています。

また、タクソノミの設計と使用においては、XBRLを実装するコストは厳しく管理され是認されるべきだという企業や政府からの要求が反映されています。



7. 英国タクソノミの設計 - 主な特徴

前項で示した英国タクソノミの目標と要件の実現には非常に多くの労力を要します。

企業の拡張タクソノミに頼らずに、自動分析に必要なすべてのデータを包括的に処理対象とするという要件は、つまりは、タクソノミの使用方法や中身が考え抜かれたもので、開発段階からテストされていなければならないということです。

タクソノミでは**すべてのタグが事前定義されていなければならない**、**ディメンション構造**（下のb以下で説明）は**完全なものである必要があります**。技術的には、タクソノミではタグ付けされる財務情報に対して完全、明瞭、かつ一貫性のあるデータモデルを提供しなければなりません。

また、これは、識別や管理が困難なタグを膨大な量含む**煩雑なタクソノミを作成せずに**実現する必要があります。タクソノミは可能な限り簡単に使用できるものでなければなりません。そして、正確、明解、かつ一貫性のあるタグ付けが必要です。

これらの目標の達成を可能にする英国タクソノミの重要な特徴を以下に列挙し、続く項でより詳しく説明します（次のリストの順番は便宜上のものです。重要度によるものではありません。これらすべての内容はタクソノミの成功に関連します）。

a. 表示

タクソノミの表示ビューは、通常の財務情報の構造をそのまま基にしています。財務情報に対する報告、主要な財務諸表、注記の構造は英国での報告に慣れている人であれば誰でもすぐに理解できます。各セクション内は、タグに階層構造を持たせることで画面上で簡単かつ便利に使用できるような設計がされています。

表示ビューの唯一の目的は、**利用者がタグを簡単に見つけて特定できるようにすること**です。個々の企業の財務情報を表示するのは、iXBRLの役割であり、タグの役割ではありません。この考え方により、財務情報の表示を処理する機能は必要なくなるため、明解かつより効率的な表示が可能になります。

第8項では英国タクソノミの表示について詳しく説明します。

b. ディメンションの使用

英国タクソノミでは「ディメンション」は、財務データの報告をする際の異なる形式または分類を表すために使用されます。ディメンションでは、継続事業や廃止事業などの標準的な詳細項目を識別します。

タクソノミで使用される数々のディメンションでは、柔軟かつ効率的に財務データに対応します。各ディメンションには多くの個別の「ディメンションタグ」が含まれ、生じる可能性がある特別な詳細項目を識別します。たとえば、有形固定資産（PPE）を表すディメンションには40個ほどのディメンションタグがあり、各タグは個別の分類を識別します。

収入や利益などの特定の会計上の概念を表している勘定科目タグは、それに使用されると考えられる特定のディメンションに紐づけられています。

英国タクソノミでは、勘定科目タグとディメンションとの関係がすべて紐づけられています。各勘定科目タグは、それに適するすべてのディメンションに紐づけられています。

こうすることにより、各企業が個別に会計テーブルを作成した場合であっても、**あらゆる企業で機能すると想定される勘定科目タグとディメンションの一般的な構造が提供**されます。

タクソノミの利用者は財務情報にタグ付けする場合や分析ルールを作成する際に、シンプルで分かりやすいディメンションタグの中から選択できます。

これはディメンションの定義と使用における「データ中心」の手法として知られます。それとは別に、表示指向の手法もあり、この手法ではXBRLによる報告の作成者は、拡張タクソノミを使用して特定の企業の財務情報内にある個々の会計テーブルに合致するディメンション構造を作成することが求められます。

[第9項](#)では英国タクソノミでのディメンションの使用方法についてさらに詳しく説明します。

c. 包括的なタグ付け

英国タクソノミでは、予期できない企業独自のデータにタグ付けするためにさまざまな技法を用いています。企業の拡張タクソノミが必要とされるような場合でも、これらの手法により信頼できるタグ付けの技法が提供されます。

次にその技法を示します。

- **分析項目 (Analysis items)**
分析項目では、事前には予測できない企業独自の詳細情報にタグ付けできます。この項目は一般的には使用されず、予測できない勘定科目に使用されます。技術的には、「型付ディメンション」として知られるディメンションの機能を使用しています。
- **非標準ディメンションタグ (Non-standard dimension tags)**
「非標準」のディメンションタグでは、ディメンションで表される一般的には使用しない詳細データにタグ付けができます。たとえば、あまり一般的ではない有形固定資産の分類を扱う場合に使用されます。
- **汎用ディメンションタグ (Generic dimension tags)**
汎用ディメンションタグは分類内の個々のメンバが企業独自であり、事前に定義できない場合に、その分類を表すために使用されます。事業体の役員や取締役、子会社、関連会社などが例として挙げられます。汎用ディメンションは、企業が報告している個々の企業独自の項目を完全に把握できるように名前タグに紐づけられます。
- **グルーピング**
グルーピングは組み合わせて使用されたり、関連する情報が複数回出現するために同一の報告内で繰り返されたりすることが想定されるタグの集合を扱うために使用されます。これも「型付ディメンション」によって扱われます。
これらの包括的なタグ付けの技法は[第10項](#)でさらに詳しく説明します。

d. その他の機能

次のような英国タクソノミの利便性や正確性を向上させる多くの機能が他にもあります。

- **タクソノミ内でのガイダンスタグ、相互参照タグ、ハイパーリンク、その他ヘルプ**
タクソノミ内にある**ガイダンスタグ (Guidance tags)**では、タグ集合の適用方法などの一般的な情報を利用者に提供します。



相互参照項目 (Cross-reference items) は関係する情報のタグがある場所を指します。タクソノミ内を利用者が効率的に参照するのに役立ちます。タクソノミ内で定義された関係により、ソフトウェアでタクソノミを表示する際にハイパーリンクを含めることができるようになり、それによって利用者は関係するセクション間を簡単に移動することができます。

文書フィールド (Documentation fields) はいくつかの個々のタグに付属し、タグの使用方法に関する補足的情報を提供します。

タクソノミの財務セクション内にあるすべての勘定科目タグには、権威ある公表物に対する**会計の参照 (accounting references)** が含まれ、それが表す概念を定義しています。これは、意図する意味や使用方法を確認するのに役立ちます。

- **テキストタグ (Text tags)**

テキストタグにはさまざまな種類があり、報告内にあるテキスト情報を効率的にタグ付けすることができます。すべてのテキストタグでは詳細な情報を定義しており、タクソノミに情報の大きなまとまりを扱うための「テキストブロック」タグはありません。

- **補足文書 (Supporting documentation)**

タクソノミはその使用方法についての詳細が記述された複数の文書によってサポートされています。**タグ付けガイド (Tagging Guide)** ではタクソノミの機能について説明があり、さまざまな状況におけるタグの適用に関するルールを規定します。**開発者ガイド (Developer Guide)** ではソフトウェア開発者向けにタクソノミについて説明します。ここではXBRLに関する情報をソフトウェアで処理および表示するためのルールを規定します。

- **一貫性チェック (Consistency checks)**

合計やそれに類するタグ付けされたデータの関係を表す一貫性チェック一式がタクソノミとともにスプレッドシート形式で公開されました。これらの一貫性チェックでは、ソフトウェア開発者がタグ付けの完全性と正確性のテストを実装する際に役立つことが意図されています。

[第11項](#)ではこれらのいくつかの機能についてさらに詳しく説明します。

e. **タクソノミの適用範囲と構造**

英国タクソノミの主なセクションは**一般商工業の企業**を念頭に設計されていますが、タクソノミには**金融、投資ファンド、資源産業**などの他の業界向けのセクションも含まれています。

その他の産業界部門を対象とした拡張タクソノミは適正な過程を経て公開されることが想定されており、作成中または計画中のいくつかの拡張タクソノミもあります。英国タクソノミでは専門的な部門からの報告のすべての面に対応する予定はないことが容認されています。むしろ、すべての面に対応する必要性がありません。データはInline XBRL内においてテキストで十分に報告に含めることが可能です。

タクソノミとタグ付けは、関係するデータの自動的な分析および比較が事業として必要だと認識されていき、それが受け入れられていくときに拡張されます。

[第12項](#)ではタクソノミの構造を示し、その開発について詳述します。



8. タクソノミの表示

8.1 表示ビュー

財務情報一式の典型的な構造や順序に従うことで、表示ビューまたは「リンクベース」では利用者が理解しやすいようにタクソノミが表示されます。次の図では、FRS 102タクソノミの最上位のセクションが示されています（セクションの番号は順序を整理するためものです）。

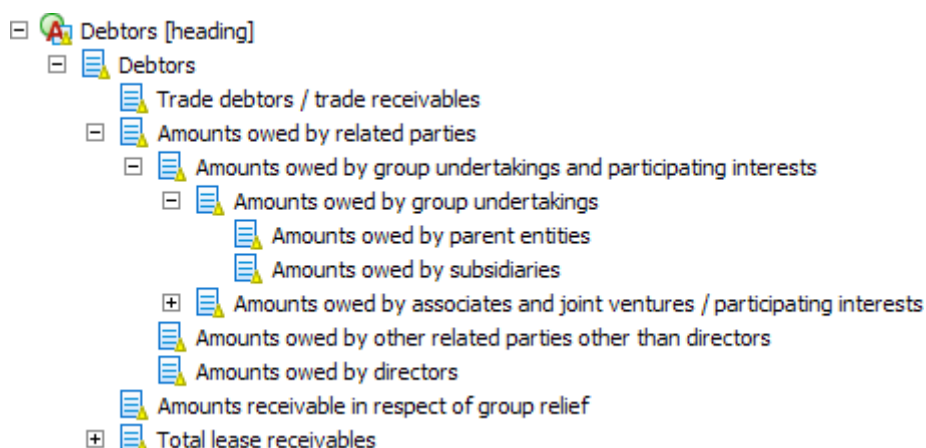
- ⊕ 001 - Taxonomy and Tagging Information
- ⊕ 002 - Entity Information
- ⊕ 003 - Report Information
- ⊕ 010 - Directors' Report
- ⊕ 015 - Audit Report
- ⊕ 016 - Accountant's Report
- ⊕ 202 - Income Statement (FRS 102)
- ⊕ 212 - Statement of Comprehensive Income (FRS 102)
- ⊕ 222 - Balance Sheet (FRS 102)
- ⊕ 232 - Statement of Changes in Equity (FRS 102)
- ⊕ 242 - Cash Flow Statement (FRS 102)
- ⊕ 302 - Notes and Detailed Disclosures (FRS 102)
- ⊕ 402 - Additional Industry Sector Data (FRS 102)
- ⊕ 500 - Dimensions Content

セクションとタグの並びは英国の企業報告に慣れている人すべてに分かりやすい構造である必要があります。次の図では、FRS 102タクソノミの注記セクションの一部が示されています。

- ⊖ 302 - Notes and Detailed Disclosures (FRS 102)
 - ⊖ Notes and detailed disclosures [heading]
 - ⊕ General information on entity [heading]
 - ⊕ Basis of preparation and general information on financial statements [heading]
 - ⊕ Changes in accounting standards, policies and estimates [heading]
 - ⊕ Significant accounting policies [heading]
 - ⊕ Critical accounting estimates and judgements [heading]
 - ⊕ Segment reporting [heading]
 - ⊕ Disposals and discontinued operations [heading]
 - ⊕ Business combinations [heading]
 - ⊕ Notes on income and expense [heading]
 - ⊖ Notes on assets and liabilities [heading]
 - ⊕ Property, plant and equipment / tangible fixed assets [heading]
 - ⊕ Intangible assets [heading]
 - ⊕ Investment property [heading]

タグは階層構造の最上位にある総計項目で整列されて表示され、その構成項目がその配下で展開されています。このようにして、よく使われる項目が見えやすく使いやすい位置にくること、画面上で効率的に表示されるようになっていきます。一例として、次の図ではFRS 102の「Debtors（債務者）」のセクションが部分的に表示され、総計項目の下に構成項目が表示されています。





この明解で分かりやすい表示方法により、最重要なタグをすばやく効率的に見つけることができます。各企業の財務情報を人間が判読可能な形式で生成するために表示ビューを使用する必要がないため、このようなことが可能になります。人間が判読可能な形式を生成するのはInline XBRLの役割です。

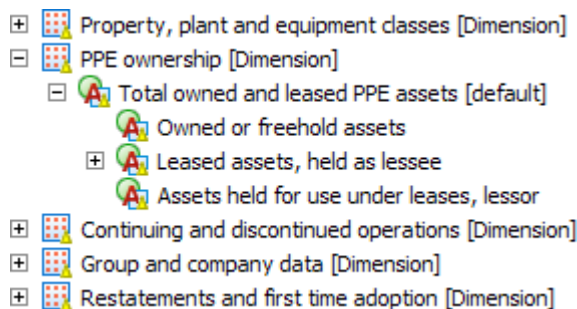
XBRLデータから人間が判読可能な財務情報を生成するための特別な仕組みをサポートする必要があるタクソノミでは、通常はもっと複雑な表示ビューが必要です。このようなタクソノミでは、見出しの項目が非常に多く、印刷用の財務情報の順序を表すために総計項目が構成項目の一番下に配置される扱いにくい階層構造になっています。また、このようなタクソノミでは、合計、反転、短縮、拡張、期首/期末というように、印刷用の財務情報で使用されるさまざまな用語に対応するために複数のラベルタイプが必要になります。

8.2 デイメンションの表示

英国タクソノミの表示ビューの主なセクションでは**勘定科目タグ**のみが表示され、必要な見出し、ガイダンスタグ、または参照タグがそれに付随しています。**デイメンションタグ**は、別の1セクションとして表示され（表示ビューの一番下で500番に割り当てられています）、利用可能なデイメンションタグの概要のみの情報を含みます。

タクソノミ専用ソフトウェアでは、各勘定科目に使用される場合がある**デイメンションタグ**を適切な画面で表示することが求められます。通常は、表示ビューとは別のウィンドウやポップアップ画面になります（各勘定科目に使用されることがあるデイメンションタグについては、タクソノミ内の別の部分、つまり定義ビューや「リンクベース」で定義されます）。

たとえば、下の図では有形固定資産の移動分析セクションの勘定科目タグ「Disposals, property, plant and equipment」（廃棄、有形固定資産）に接続されているデイメンションが示されています（たとえば、デイメンションのうちの1つ、「PPE ownership」（有形固定資産の所有権）のみがデイメンションタグの中で部分的に展開されています）。



ディメンションとの接続関係を表示ビューの主要な本文で表示することは不要であるか、または実用的ではありません。勘定科目とディメンションタグが混在する特定の財務テーブルを表現しようとするとは必ず失敗します。そのようなテーブルの構造は企業によって大きく異なるためです。個々の財務情報の表示はiXBRLの役割であるため、ディメンションとの接続関係を示す必要はありません。

その代わりに、利用可能なディメンションはタクソノミ専用ソフトウェアによって最も効果的に表示されます。そのため、申告者は特定のコンテンツやテーブルを表すために必要なあらゆるディメンションのオプションを選ぶことができるようになります。

8.3 ラベル

タグに付与するラベルの質がよいことは、タクソノミの効率性や利便性に必須の要素です。

英国タクソノミ内のラベルは、冗長で扱いにくくなることなく、項目を明確かつ唯一のものとして識別するように設計されています。このタクソノミでは標準的な会計タクソノミを使用しており、タクソノミの内容は多くの様式や慣習に従っているため、利用者がタクソノミの型を判別してすばやくその目的を認識できるようになっています。各タグの認識に必要なのは、標準ラベル1つのみです。

ラベルでは値に正数または負数のどちらを入力するのかが示されます。負数を表す場合は括弧書きでそれを表す用語を含めます（例：「*Operating profit (loss)*」（営業利益（損失）））。

ラベルの後ろにある角括弧内の用語によって、利用者は異なるタイプのタグをすぐに判別できます。例として、[boolean]、[guidance]、[cross-reference]などがあります。これは、技術的な意味での区別（タグの「データタイプ」など）を補強するものです。

8.4 英国タクソノミの閲覧

最近の英国タクソノミはインターネットの[こちらのページ](#)で閲覧できます。

このページでは、各タクソノミの表示ビューと個々のタグ詳細を表示します（ディメンションとの接続関係やその他の「定義リンクベース」関係は表示されません。表示するには、それに適したタクソノミ表示ソフトウェアを使用します）。

タクソノミはFRCのWebサイト (<https://xbrl.frc.org.uk/>) でダウンロードできます。



9. タクソノミのディメンション

9.1 ディメンションの範囲

英国の会計タクソノミには90ものディメンションがあり、幅広い形式や分類を持つデータを識別しています。とりわけ、ディメンションは次のものを区別するために使用されます。

- 企業の決算データと連結決算データ
- 継続事業と廃止事業
- 持分の分類
- 有形固定資産、無形資産、引当金などの資産の分類
- 地理、経営、およびその他の事業のセグメント
- 子会社、共同出資会社、関連会社
- 買収または企業結合
- 関係する当事者
- 年金計画、株式報酬契約
- 金融商品に関する幅広い範囲のデータ（資産負債の分類、金融商品のさまざまな側面、デリバティブ型と目的、値の型、流動/非流動、償還期限、減損の許容範囲、リスクへのエクスポージャーなど）。
- 株の分類とタイプ
- 取締役
- 訂正情報（過年度の調整を含む）
- 事業体のタイプや性質と財務報告のさまざまな側面

ディメンションの中には、所有資産かリース資産か、または在庫は流動資産か非流動資産か、などの一般的な区別にのみ関係するものと、一般的な区別と特別な区別のどちらも対象とするものがあります。たとえば、関連当事者のディメンションでは関連当事者の**一般的な分類**（親会社、グループ会社、経営幹部など）や、各分類の中の関係当事者の**詳細な分類**を識別することもできます。

各ディメンションに含まれるディメンションタグの数はそれぞれ大きく異なります。たとえば、持分分類ディメンションには保持する個々のタイプを表す約50ものディメンションタグがありますが、グループ/会社ディメンションにはグループデータか企業データかを表す2つのディメンションしかありません。

このようなディメンションの幅広い特性により、英国タクソノミでは財務情報に出現する広範囲のデータを十分に対象範囲とするための強力な手段が提供されます。

9.2 ディメンションの使用

勘定科目タグのいずれかに使用できるディメンションは、**すべてタクソノミで定義**されます。このため、利用者はディメンションタグを簡単に選んで使用できます。報告の作成者はディメンションの技術的な側面を理解する必要はありません。タクソノミ専用ソフトウェアで利用可能なタグを適用すればよいだけです。

タクソノミには、XBRL形式の報告に必要な勘定科目とディメンションタグの**すべての組み合わせ**が含まれています。このタクソノミでは会計基準に従わない不適切な組み合わせや会計上意味をなさない組み合わせは**使用できません**。



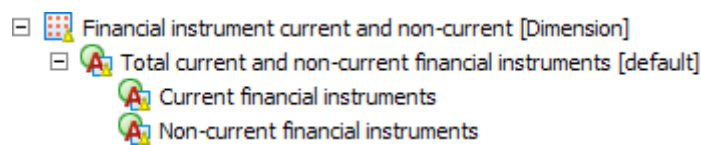
また、各テーブルは企業によって形式も内容も大きく異なるため、このタクソノミでは特定の財務テーブルを表す定義はされていません。その代わりに、勘定科目とディメンションタグの一般的な関係を定義することで、個別の内容や形式が異なっている場合であってもリストやテーブル内のデータに対して簡単かつ効率的にタグ付けをすることを可能にしています。

多くの勘定科目タグはタクソノミ内の少数のディメンションにのみ紐づけられます。たとえば、有形固定資産の多くの科目は有形固定資産の分類、有形固定資産所有権、継続事業/廃止事業、グループ/会社、修正再表示の5つのディメンションに紐づけられます。これらは[第8.2項](#)の図に示します。

しかし、一部の金融商品では勘定科目が相当な数のディメンションに紐づけられるものもあり、金融商品の報告は複雑で自由度が高い事情を反映しています。

報告書の作成者によるタグ付けを簡単にするため、英国タクソノミ内の多くのディメンションには「デフォルト」ディメンションタグがあります。このタグは、報告作成者が自身でディメンションからタグを選択しなかった場合にディメンションに適用されます。この機能により、報告作成者はタグを適用する労力を削減することができます。デフォルトタグは、標準的なディメンションに想定される目的を表します。通常は、総計値のタグになることが多いのですが、それ以外の場合もあります。

下の図では、金融商品の総計のデフォルトディメンションと、流動ディメンションおよび非流動ディメンションが示されています。



一部のディメンションには「Not applicable」（適用不可）というデフォルトタグが含まれているものもあります。これは、利用者がディメンションから意図的にタグを適用しない限り、このディメンションを事実上無視することができることを意味します。このデフォルトタグはディメンションがリンクする勘定科目に関する頻度が低い場合に有用です。たとえば、金融資産はあまり再分類されることがないため、金融資産の再分類でのさまざまなタイプを表すディメンションにはデフォルトタグとして「Not applicable」（適用不可）があります。そのため、このディメンションはタクソノミ内のすべての金融資産の勘定科目に結び付けることができますが、適用されるのは必要な場合のみということになります。

この仕組みは、タクソノミ内で勘定科目とディメンション関係を事前に定義する際に柔軟性を持たせることに役立ちます。これにより、勘定科目に必要な可能性のあるすべてのディメンションを勘定科目にリンクさせることが可能になります。



10. 包括的なタグの実現

10.1 はじめに

第7項で概要を示したように、英国タクソノミでは、一般的には使用されず予測できない企業独自のデータに対応するための拡張タクソノミの作成を企業に要請することなく、さまざまな技法を使用して財務情報への包括的なタグ付けを実現しています。これらの技法では、そのような使用頻度が低いデータを信頼性のある方法でXBRLタグを使用して識別および分類します。

この技法は、XBRL仕様の基本的な機能を基盤としながらも、革新的なタクソノミの設計方法を取り入れており、英国での申告においては安定的な運用が行われています。

10.2 分析項目 (Analysis items)











「分析項目」として知られるこのタグは、タクソノミ内に適切な勘定科目タグがない財務情報のエントリにタグ付けするために使用されます。

英国タクソノミでは可能な限り、開示のための詳細なタグを提供しており、財務情報の大部分またはすべてを通常の明確な勘定科目タグで対応することが可能です。しかし、各企業が採用する可能性がある報告内でのすべての項目のバリエーションや内訳を予測することは不可能です。分析項目では、通常の勘定科目タグでは対応できない、一般的ではなく予測ができない詳細な情報を扱います。

各分析項目タグは、このタグが出現するセクション固有のもので、セクションの金額や数値の合計をまとめるコンポーネントを表すものとして定義されます。必要に応じて、セクション内で適用できる勘定科目タグがない複数のエントリにタグ付けするために、このタグが繰り返し使用されることもあります。

分析項目は、項目自体が出現するセクションの完全なタグ付けをサポートすることを目的としており、セクション内のデータの合計やその他の自動化された分析を可能にします。

分析項目には利用者がそれと簡単に識別できる特別な形式のラベルがあります。そのラベルは、通常「Further」（付加）という単語からはじまり、ラベルのコンポーネント全体を表す文言が続きます。下の図では、タクソノミの現金および現金同等物のセクション内の分析項目「Further item of cash and cash equivalents [component of total cash and cash equivalents]」（現金および現金同等物の追加項目[現金と現金同等物の合計コンポーネント]）を示しています。

- ☐  Cash and cash equivalents
 - ☐  Cash at bank and on hand
 -  Cash on hand
 -  Balances with banks
 -  Loans and receivables, classified as cash and cash equivalents
 -  Banking arrangements, classified as cash and cash equivalents
 -  Short-term investments, classified as cash and cash equivalents
 -  Short-term deposits, classified as cash equivalents
 -  Further item of cash and cash equivalents [component of total cash and cash equivalents]
 -  Other cash and cash equivalents

この分析項目は、現金および現金同等物の合計の**直接コンポーネント**として報告され、利用可能な特定のタグによって**表されない**、どの現金および現金同等物のタイプの値をタグ付けする場合にも使用できます。たとえば、銀行の協定書のエントリを置き換える詳細なエントリに対応するために使用されることがあります。また、短期投資や短期性預金の組み合わせなどの集合にも対応します。このように、分析項目では、現金および現金同等物の内訳を示す、あらゆる開示財務情報に完全にタグ付けできます。

分析項目は、主要セクション、サブセクション、移動分析およびその他の詳細な開示情報を含む、予期できない勘定科目が出現する可能性がある主要な財務諸表および注記のセクションで使用されます。

予期できないデータを扱うという役割とは別に、分析項目は通常の勘定科目タグとまったく同じように機能します。関係するセクション内の他の勘定科目タグと同じディメンションに紐づけられるため、データの形式や分類は同じように表示できます。

技術的には、分析項目タグは「型付ディメンション」として知られる特別な形式のディメンションに紐づけられます。これにより、必要に応じて、セクション内の異なるエントリに対応するために各タグを複数回使用することができるようになります。またタグの使用は、それぞれ別個に識別されます。

英国タクソノミでは、分析項目で使用する特定のデータを説明する「名前」タグと分析項目は組み合わせて使用していません。これでデータ利用者は誰でもiXBRLのテキストを確認して分析項目によって表されるデータの説明を確認することができるようになるため、申告者には不要な労力がかかるように思われました。説明がなくても自動化された数値の分析はできます。しかし、その他のプロジェクトで説明が必要になった場合は、名前タグは簡単に各分析項目タグに紐づけすることができ、説明を各使用方法と関連付けることができます。

10.3 非標準ディメンションタグ (Non-standard dimension tags)

「非標準」ディメンションタグはいくつかのディメンションに含まれ、事前に定義ができず一般的ではない分類や内訳に使用されます。

このタグは、勘定科目タグの分析項目で扱われるものと同様の役割をディメンション内で果たします。また、(a)ディメンション内の明示的なタグでは対応できず、(b)ディメンション合計の直接コンポーネントである分類や内訳を表すために使用されます。

このタグは予期しない分類やカテゴリが出てくる可能性がある限られた数のディメンション内でのみ使用されます。通常のディメンションタグが事象の大部分に対応することが想定されているため、これらのディメンションに含まれる非標準ディメンションタグの数は少数です。次の図では、有形固定資産の分類のディメンションに含まれる非標準ディメンションタグを示しています。

- [-] [A] Property, plant and equipment classes [Dimension]
 - [-] [A] Total property, plant and equipment [default]
 - [+] [A] Land and buildings
 - [+] [A] Leasehold improvements
 - [+] [A] Investment property included within PPE
 - [+] [A] Construction in progress / assets under construction
 - [+] [A] Vehicles, plant and machinery
 - [+] [A] Furniture, fittings, tools and equipment
 - [+] [A] Network assets
 - [+] [A] Assets not yet available for use, PPE
 - [+] [A] Mining, oil and gas, additional PPE classes [heading]
 - [+] [A] Non-standard PPE class 1 [component of total property, plant and equipment]
 - [+] [A] Non-standard PPE class 2 [component of total property, plant and equipment]
 - [+] [A] Non-standard PPE class 3 [component of total property, plant and equipment]
 - [+] [A] Non-standard PPE class 4 [component of total property, plant and equipment]
 - [+] [A] Other property, plant and equipment

このようなタグが存在することで、データをすべてタグ付けすることができ、それによってデータに対して実行される幅広いテストとルールが自動化が可能になります。非標準ディメンションタグでは使用される特定の分類の説明はありません。説明については、データ利用者がiXBRLのテキストを読む必要があります。

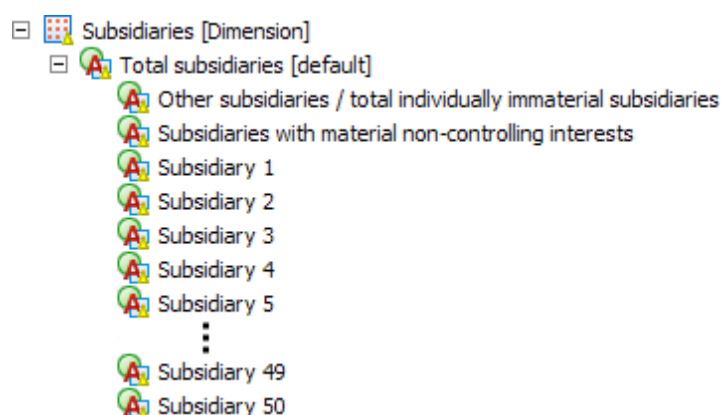


10.4 汎用ディメンションタグ (Generic dimension tags)

「汎用」ディメンションタグは各メンバが企業固有で事前に完全に識別することができないデータの分類に対して使用されます。事業体の役員や取締役、子会社、関連会社などが例として挙げられます。

汎用ディメンションタグは番号が付与されたタグによってそのような分類を表します。たとえば、各子会社は「Subsidiary 1」(子会社1)、「Subsidiary 2」(子会社2)のように表されます。タクソノミでは、各分類内にこれらのタグが十分に含まれており、すべての可能性あるタグ付け要件に対応します。

次の図では子会社ディメンションの一部を示しています。汎用子会社タグは50番まであります(50社以上の子会社がある企業もありますが、財務情報内で一覧化された詳細情報やタグ付けに必要な番号は通常はこれより少ない数になります)。



汎用ディメンションの各集合は、企業が報告している個々の企業独自の項目を完全に把握できるように名前タグに紐づけられます。たとえば、子会社の汎用タグは勘定科目タグ「子会社の名前」に紐づけられます。

英国の会計タクソノミ内の合計16ディメンションに汎用メンバが含まれています。すべてのディメンションには明示的ディメンションタグが含まれ、合計やその他の情報に対応します。ディメンションの例を次に挙げます。

- Entity officers (事業体の役員) : 各取締役を識別します
- Continuing / discontinued operations (継続事業/廃止事業) : 特定の廃止事業を識別します。
- Associates (関連会社) : 特定の関連会社を識別します。
- Operating segments (営業部門) : 特定の営業部門を識別します。
- Related parties (関係者) : さまざまなタイプの特定の関係者を識別します。
- Business combinations (企業結合) : 特定の企業結合を識別します。
- Post-employment benefit plans (退職後給付計画) : 特定の計画を識別します。
- Share-based payment arrangements (株式に基づく報酬契約) : 特定の契約を識別します。
- Share classes (株式分類) : 特定の分類を識別します。

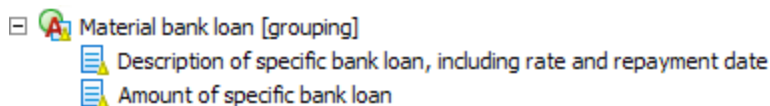
汎用ディメンションタグは企業独自の拡張を阻止しながらも完全なタグ付けを実現するための重要な手段です。



10.5 グループピング

グループピングは一片の情報に関連する側面を表現するタグを含み、組み合わせて使用されることが想定されています。それらのタグは対象とする情報タイプが複数出現する場合に対応するため、報告内で繰り返し使用されることがあります。

通常は、グループピングは狭義に定義された詳細情報を対象とします。説明的なテキストタグと金額タグの組み合わせが頻繁に含まれます。例として下に示す特定の銀行融資のためのグループは、異なる融資を扱うために複数回使用されることがあります。



「グループピング」として印が付いた見出し項目は入れ物の役割だけを担っており、自身にタグ付けされることはありません。

グループピングの中のタグはその他の勘定科目タグと同じような役割があります。技術的には、「型付ディメンション」という特別なディメンションに紐づけられ、組み合わせて使用しているファクトをソフトウェアで認識したり、必要に応じて繰り返し使用したりできます。以前はXBRLの「タプル」と呼ばれる機能で関連する情報をグループ化していましたが、最新の英国タクソノミでは、型付ディメンションを使用したグループピングのほうが一貫性と利便性に優れているため、グループピングの手法がタプルに置き換わっています。

グループピングは、詳細で企業独自の情報へのタグ付けが簡単になる非常に有益な技法です。最近の英国会計タクソノミには23のグループピングが含まれています。これらのグループピングでは幅広い題材を扱います。その中には、個人の株式問題、特定の繰越税金資産、取締役への融資と保証、重要な個人資産および会計基準で必要とされるその他の報告詳細などが含まれます。



11. その他のタクソノミの機能

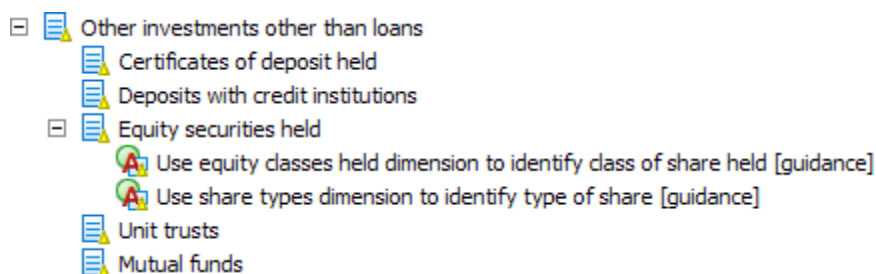
11.1 ガイダンス情報

タクソノミには利用者に正しく使用してもらうためのさまざまな情報が含まれます。

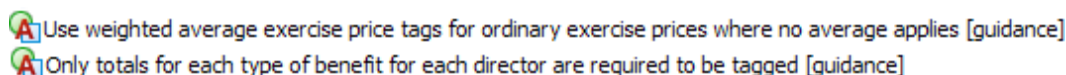
a. ガイダンスタグ (Guidance tags)

ガイダンスタグは表示ビューで表示されます。このタグではタグ集合の使用法やディメンション使用についての簡単な説明など、役立つ情報を案内情報として提供します。ラベルの最後に[guidance]という単語が付与されており、「guidance item」(ガイダンス項目)というデータ型を持ちます(後者のデータ型はソフトウェアから簡単に識別できるようにするもので、必要であれば特別に表示することもできます)。

ガイダンス項目にはタクソノミの使用についての説明全体を載せることはできません(タクソノミ文書がその役割を担います)。この項目では、利用者に重要ポイントについて簡単ですぐ分かる説明が示されます。下の図ではディメンションの使用に関する簡単な説明をするガイダンスタグを示しています。

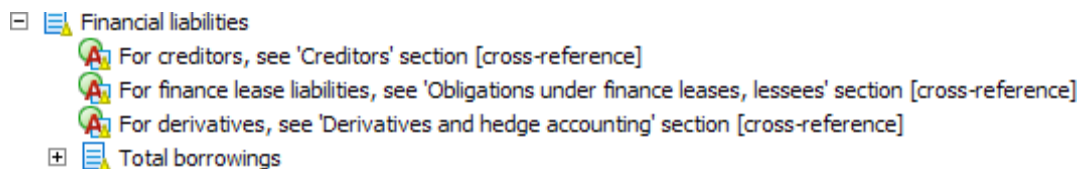


その他のガイダンスタグでは、タグ付けの方法や範囲について簡単に説明しています。



b. 相互参照タグ (Cross-reference tags)

相互参照タグは表示ビューにあり、関連する情報がある場所を示して、利用者がタクソノミ内を移動して閲覧するのに役立ちます。タクソノミ専用ソフトウェアでは、利用者はハイパーリンクをクリックしてタグと関連する情報間を移動します。次に示すのは相互参照タグの例です。



すべての相互参照タグは、タクソノミの定義リンクベースに置かれる特別リンクによって指定されるセクションに関連付けられます。これらの「カスタムアーク」により、ソフトウェア開発者はタクソノミの表示内にハイパーリンクを作成できるようになります。

タクソノミの主要機能について第7項で説明したとおり、「文書フィールド」は、いくつかのタグにそれぞれ紐づけられて、使用に関する補足情報を提供します。勘定科目タグには会計参照情報が含まれ、その意味を確認するのに役立ちます。タクソノミに付属する文書では、申告者向けの使用法とソフトウェア開発者向けの取扱い方法について説明しています。また、ソフトウェアによるタグ付けの完全性や正確性のテストに使用できる一貫性チェックも規定されています。

11.2 テキストのタグ付け

英国タクソノミ内のテキスト情報をタグ付けする主な目的は、次の情報を識別することです。

- 事業体の名前などの重要な情報。
- 特定の会計ポリシーなど、重要な意味を持つ説明的項目。
- 企業の現状やその会計情報に関する重要な財務諸表。
- 一部の開示情報に関する事業体からの補足的コメント。

テキストのタグ付けは重要な意味を持つテキスト情報の存在を確認し、見つけやすくすることを目的としています。事業評価などの長文のテキストによる報告を扱うことを意図しているではありません。そのような長文テキストは企業ごとの書式によってiXBRL形式で表示するのが最適です。

テキストタグは、一般的には**テキスト情報をすべて対象とするように設計されており**、それだけでは意味を成さないテキストの断片は対象としていません。たとえば、認識または戻入れられた有形固定資産の減損損失の説明に対応するテキストタグが1つある場合、タクソノミでは、その減損の要因となる事象や、戻入れの金額の決定方法、見積の背景にある前提などの記述に関するタグは分割されません。

この方法により、**タグ付けされたテキストは確実に即時性があり包括的で利便性の高いもの**となり、さらには申告者が不要なタグ付け作業をすることも防ぐことができます。

Inline XBRLでは、たとえば財務テーブルの前と後などにテキストを分割することが1つのテキストタグで可能なため、テキストのタグ付けをシンプルにできます。

基本財務諸表内の補足説明（つまり注記）はタクソノミ内では「free-text comment」タグとしてラベル名が付いたテキストタグによって扱われます。このテキストタグによってそのような説明情報がXBRL内で簡単に把握できるようになります。

テキストタグのラベルは次の標準的な慣習に従っています。たとえば、説明的な情報に使用するタグは「Description of ...」という文言で始まります。この慣習により、テキストタグを簡単に認識および理解できるようになっています。

11.3 技術的特徴

a. 固定値タグ

一部のタグは、事前定義された値の組み合わせのみが使用できるデータを表すことが意図されています。英国タクソノミでは「fixed value」（固定値）タグを使用してそのようなタグに対応します。このタグでは、紐づけられているディメンションタグから値を取得します。タグ自身は「empty」（空白）として定義されており、特別なデータ型「fixedItemType」を持ちます。ディメンションタグは、固定値タグで使用される可能性があるすべての値を表します。

たとえば、「Country of formation or incorporation」（法人または組織の設立国）タグは国ディメンションに紐づけられ、申告者が使用するための国の集合を事前に定義しています。それと同様に、「Legal form of entity」（事業体の法的形式）は、使用できるすべての事業体を表すタグを含む事業体ディメンションの法的形式に紐づけられます。

この手法で、このようなタグにはソフトウェアで認識できる正しい値のみが使用されることを保証する簡単で信頼性の高い方法が提供されます。



b. 残高属性とキャッシュフローデータ

ほぼすべての金額の項目タグには貸方および借方のbalance（残高）属性があります。これは開発者がソフトウェアで計算式を組み立てるのに役立ちます。しかし、キャッシュフローデータを借方および貸方に仕訳するのは、厳密にいうと会計上の観点からは適切ではなく、変則的な計算の原因になる可能性があります。そのため、英国タクソノミではキャッシュフローを識別して、これらの項目の借方残高はキャッシュイン、貸方はキャッシュアウトを意味することを示す特別な機能を導入しました。

この機能は定義リンクベースの中の特別なリンクや「カスタムアーク」によって実現します。借方のキャッシュインフローのすべての科目はインフローのアークに紐づけられ、すべての貸方の科目はアウトフローのアークに紐づけられます。

この手法により、会計上の観点からのより厳密な定義が可能になり、ソフトウェアの計算における特異な問題を克服するのに役立っています。

英国タクソノミにはタグ付けやソフトウェアによる正確な処理に役立つ多くの機能があります。たとえば、技術的機能として見出し項目、相互参照項目などを識別するデータ型があります。

これらの機能については、タクソノミの**タグ付けガイド**と**開発者ガイド**ですべて説明されており、それらのガイドは英国のFinancial Reporting CouncilのWebサイト (<https://xbrl.frc.org.uk/>) で入手できます。

12. タクソノミの構造、適用範囲、開発

12.1 構造と適用範囲

英国の会計タクソノミでは、原則的には商業界および産業界の企業の要望が反映されていますが、銀行や金融会社、投資ファンド、および鉱業、石油、ガスなどの採取産業向けの追加のタグを持つセクションもあります。その他の業界向けに拡張も計画されています。

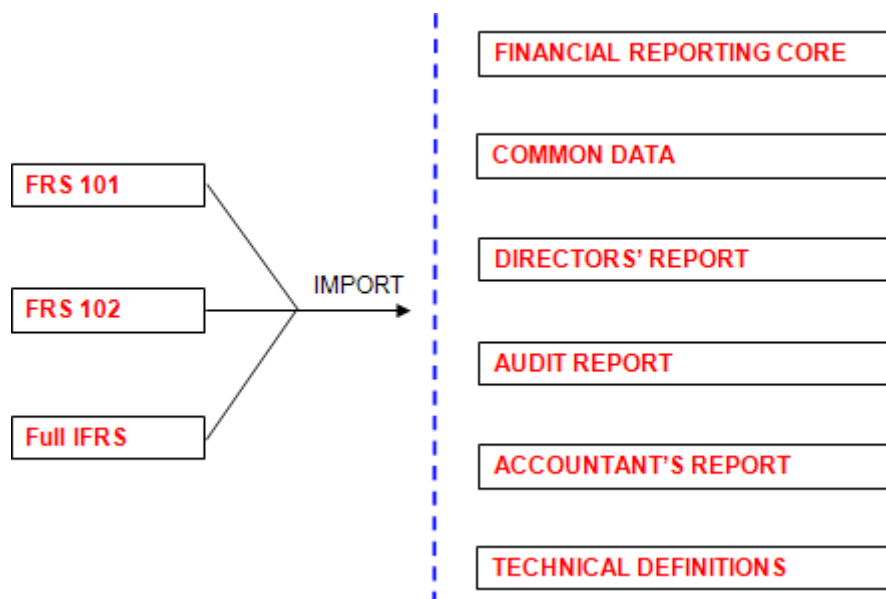
タクソノミと英国の会計規則について第3.3項で説明したように、英国タクソノミの構造は、英国の主要な会計基準から抽出された会計概念を扱う**標準的な会計報告の主要タクソノミ**を中心としています。

また、このタクソノミには財務報告で出現する可能性がある標準的な情報を扱う一般的なコンポーネントも含まれます。それらのコンポーネントには以下があります。

- 事業体に関する基本情報と財務諸表そのもの（国や地域などの標準的な情報のためのタグが付属）で、「**Common data**」（共通データ）コンポーネントと呼ばれます。
- Directors' report（取締役報告書）
- Audit report（監査報告書）
- Accountant's report（会計士の報告書）（監査対象ではない会社の場合）

これらのコンポーネントは今後のタクソノミ開発で柔軟に使用できるようにするため、個別のタクソノミモジュールから作られています。

英国の主要な会計タクソノミの基本構造を表す概念図を下に示します。



FRS 101、FRS 102、Full IFRSタクソノミのコンポーネントは、基本的には、各基準の要件を満たすために主要タクソノミに含まれる情報を**適応および表示**させる機能を持ちます。

その他のタクソノミ（特にその他の業界向けのタクソノミ）は、必要に応じて基礎となるコンポーネントをインポートして、同一の基盤上に作成することができます。タグの追加やディメンション構造の修正、関連セクターに適切な表示ビューの作成などをする場合もあります。

英国タクソノミでは、合計をモデル化する際に「計算」リンクベースは使用していません。ディメンション構造を持つ情報を表すことができないこれらのリンクベースは有用ではないというのが英国の考え方です。

12.2 今後の開発について

FRCはその他の機関や企業と連携し、特別な規制または慣習に従っているがゆえに既存のタクソノミで対応することが難しい部門向けに拡張タクソノミを作成しています。保険会社や小規模企業向けに拡張することを計画しており、慈善活動会計向け拡張タクソノミはCharity Commissionと共同で策定しています。

また、会計基準と現場での実践結果を比較して**既存のタクソノミを刷新**することも計画しています。

HMRCは**税務報告において英国で使用されるその他の2つのタクソノミ**を個別に担当しています。一方のタクソノミでは法人税に関する基本的な情報を扱います。もう一方では、特定の収入や支出に対する詳細な内訳を含む「損益詳細」報告を扱います。HMRCへの企業の申告にはこれらの法人税申告と財務情報が含まれています。

これらのHMRCのタクソノミは**会計タクソノミで採用される設計原則**に従っています。英国では、次に説明するようにタクソノミの開発および使用において各企業および機関が密接に連携し合っています。

12.3 開発プロセス

最新の英国会計タクソノミを開発するためにFRCが先導するプロジェクトは非常に意味のあるものでした。はじめてのプロジェクトの計画を終えて、新しいタクソノミのための活動が2013年5月に開始されました。それらのタクソノミは2014年5月に公開レビューのためにリリースされ、公開レビューでの意見を鑑みて改訂した後、最終版が2014年9月に正式に公開されて、このプロジェクトは予定通りの予算とスケジュールで完了しました。

開発チームはXBRLの専門知識を持ちタクソノミ作成をしたことがある開発マネージャー、そして続いて監査法人およびHMRCからの会計士によって構成されました。プロジェクトの全体統括を担当したのはFRCです。

FRCでのXBRL開発は、HMRC、Companies House、Department of Business（企業活動を担当する政府機関）、ICAEW（イングランド及びウェールズ勅許会計士協会）、そして数多くの大企業やXBRL UKおよびXBRL Irelandからの代表者によって構成される**統制委員会**が監督しています。この委員会では戦略を立て、必要に応じて他の機関に助言を求めます。

監査法人、ソフトウェア開発者、HMRCおよびその他の団体によって構成される技術委員会では、タクソノミの中身と設計についての詳細を確認します。最終的なタクソノミの承認はFRCに委ねられます。

ドラフト版と最終版のタクソノミは**CoreFilingのYetiシステム**で公開されます。このシステムでは該当のタクソノミをインターネットで閲覧することができ、レビューアからの意見を集めることもできます。

XBRL Internationalの英国における組織である**XBRL UK**は、英国でのXBRLの開発および使用について全般的な支援を行っており、監査法人、ソフトウェア会社、政府機関およびその他の機関を集めて、申告者や財務情報の利用者向けにXBRLの実装や拡張の計画について議論ができるフォーラムを提供しています。このフォーラムにより、英国でのXBRLの効果的な統合が促進されています。



用語集

分析項目 (Analysis items) 分析項目は、特定のタグがない会計情報内のエントリ向けに設計された勘定科目タグです。各分析項目タグは当該タグが出現するセクションごとに固有であり、異なるエントリをタグ付けするために複数回使用されることがあります。詳細については、[第10.2項](#)を参照してください。

データ型 (Datatypes) タクソノミのタグには、そのタグの意味や役割を識別し、XBRLデータの処理を支援するための「データ型」が割り当てられます。

定義リンクベース (Definition linkbase) 定義リンクベースは、タグとタクソノミのさまざまな関係を構築するために使用されます。英国タクソノミ内でのその主な機能は、ディメンション（用語集の説明を参照）の構造および使用を定義することです。また、その他の関係も規定しています。

**ディメンション
とディメンシ
ョンタグ**
(Dimensions
and dimension
tags)

タクソノミのディメンションは、会計データが報告される各種形式を表しています。各ディメンションには多くの個別の「ディメンションタグ」が含まれ、生じる可能性がある特別な詳細項目を識別します。[第9項](#)により詳細な説明があります。

拡張タクソノミ (Extension taxonomy) 拡張タクソノミでは、タグの追加、別の表示ビューまたはその他の変更によって一方のタクソノミを修正します。拡張タクソノミでは基本となるタクソノミの定義は変更してはいけません。英国でのXBRL形式の報告書の提出では、企業独自の拡張タクソノミを使用しないことが求められています。

**FRC (Financial
Reporting Council)**

FRC (Financial Reporting Council) は英国の独立規制当局で、企業報告、監査および保険数理の実務の標準を規定しており、会計基準および監査基準を管理しています。

固定値タグ (Fixed value tags) 固定値タグは事前定義された値の組み合わせのみを使用するデータを表します。このタグでは、紐づけられているディメンションタグから値を取得します。タグ自身は「empty」（空白）として定義されており、特別なデータ型「fixedItemType」を持ちます。ディメンションタグは、固定値タグで使用される可能性があるすべての値を表します。詳細については[第11.3項](#)を参照してください。

FRS 101 およびFRS 102

Financial Reporting Councilから公開された英国およびアイルランドの会計基準です。

- 汎用ディメンションタグ (Generic dimension tags)** 汎用ディメンションタグは、クラスを構成する各メンバの明確な名前が事前には分からない情報のクラスを表します。たとえば、個々のディレクトリ、個々のサブディレクトリをまとめるタグというような例が挙げられます。汎用ディメンションタグは、クラス名とその後続く各タグを示す番号によって構成されます。汎用ディメンションは、各汎用タグの用途を識別する勘定科目タグの名前または説明に紐づけられます。詳細については[第10.4項](#)を参照してください。
- グルーピング (Grouping)** グルーピングは、特定の情報の断片に関連する側面を説明し、XBRLによる報告と組み合わせるか、または繰り返し使用されることが想定されるタグを包括するために使用します。[第10.5項](#)により詳細な説明があります。
- IFRS** 国際会計基準評議会 (International Accounting Standards Board, IASB) によって公開される国際的な会計規則です。英国は企業報告をこの規則に従って公開します。
- Inline XBRL (iXBRL)** 英国でのすべてのXBRLによる報告はInline XBRL形式になっています。この形式では、Web言語であるHTMLを基盤として報告が人間判読可能な形で公開され、ファイルの配下の非表示領域にはXBRLタグが存在します。iXBRLは、XBRLデータの表示において、強力なソリューションとさまざまな利便性を提供します。別名iXBRLとも呼ばれます。
- インスタンス文書 (Instance document)** XBRL形式のローデータです。XBRL形式で表されているファクトによって構成され、コンピュータによる判読可能なXBRLタグとその他のXBRLに関する情報が共に含まれます。コンピュータソフトウェアによって処理することが想定されており、人間は判読できない形式です。この形式には、表示のための構造は含まれません。
- ラベル (Label)** ラベルはXBRLタグ内にある人間が判読可能な説明で、主に定義などが記載されています。ラベルは、可能な限り対象タグを一意に識別します。
- 勘定科目タグ (Line item tags)** 通常の会計概念を表すタグです。このタグは、タグ付けでは直接的には使用されない (a) ディメンションタグ (用語集の他の項目を参照) と (b) 特別なタグ (見出し、ガイダンス項目など) を除く、すべてのタグです。勘定科目タグは表示リンクベース (用語集の他の項目を参照) に一覧が示されます。
- 非標準ディメンションタグ (Non-standard dimension tags)** 非標準ディメンションタグはいくつかのディメンションに含まれ、事前に定義ができず一般的ではない分類や内訳に使用されます。このタグは、勘定科目タグの分析項目で扱われるものと同様の役割をディメンション内で果たします。詳細については[第10.3項](#)を参照してください。



財務情報への注記 (Notes to the accounts) 基本財務諸表の下に位置する詳細な開示情報で、「footnotes」(脚注)とする国もあります。

表示ビューまたはリンクベース (Presentation view or linkbase)

タクソノミ内のタグを利用者に表示させるための基本的なビューが表示リンクベースに定義されています。このリンクベースではタグの構造と順序のどちらも規定できます。

タグ (Tag)

XBRLのタグは事業データ項目に付与されたコンピュータが判読可能な識別子です。

タグ付け (Tagging)

iXBRL形式の報告を作成するプロセスの一部として、XBRLのタグを報告に適用することです(用語集の「タグ」および「iXBRL」の項目も参照してください)。タグ付けにはソフトウェアを使用します。報告や使用するソフトウェアの性質によって、自動的にタグ付けするものと手動のものがあります。

タクソノミ (Taxonomy) タクソノミは、XBRL言語の辞書のようなもので、コンピュータによって判読されて特定の財務および事業のデータ項目を識別するために使用されるタグによって構成されます。

型付ディメンション (Typed dimension) 特別な型を持つディメンションで、特定の事前定義されたディメンションタグは含まれませんが、いくつかの一般的な属性によって定義されます。英国タクソノミ内の型付ディメンションは分析項目タグとグルーピング(用語集の他の項目を参照)に使用されます。この型付ディメンションは正数によって表されるディメンションタグを含有するものとして定義されます。事実上、この型付ディメンションによって「匿名の」ディメンションタグが提供され、勘定科目タグが使用される度に正数を変更することで、このディメンションに紐づけられる勘定科目タグが何度でも再利用できるようになります。詳細については、タクソノミに付属するガイダンス文書を参照してください。

XBRL UK会員

XBRL UKは、長い歴史を持つXBRL国際コンソーシアム（XII）の会員で、英国においてXBRLの活用促進活動を行っています。XBRL UKの主な活動は以下になります。

- マーケティングおよび啓発活動によってXBRL標準の活用を推進。
- XBRLを採用する団体に対して、技術情報やその他のサポート情報を提供。
- XBRL国際コンソーシアム内での英国に関する事項の代表。
- XBRL Europeを通じた欧州市場全体と標準策定ワーキンググループへの連絡手段の提供。

XBRL UKはイングランド及びウェールズ勅許会計士協会（ICAEW）に支援されており、公的機関や会計士、技術専門家、ソフトウェア企業などの幅広い分野のメンバが含まれます。

UK会員はHMRCおよびCompanies Houseと密接に連携してそれぞれのXBRL申告プロジェクトを推進しており、設計および実装フェーズにおいて民間および技術者からの意見や助言を取り入れています。

XBRL UKはInline XBRL標準の開発を最も尽力していた会員であり、HMRCでの法人税プログラムに関連する技術的な問題を解決し、市場での認知を広げるため、XIIレンダリングワーキンググループ後援の元、そのメンバによってInline XBRLは開発されました。昨今多大な成功を収めたXBRL標準のひとつであるiXBRL標準は、多くの他のOECD国の各国の申告プログラムでも採用が進められています。

UK会員のプログラムでは、会議、カンファレンス、ロードショーなどが開催されます。

このホワイトペーパーの制作はPeter Calvertの協力によるものです。



XBRL UK Limited 17
Cosgrove Road,
Old Stratford,
MK19 6AG

info@xbrl.org.uk

www.xbrl.org.uk

【本記事の翻訳者：大谷 奈々恵 (nanae.ohtani@cosmoseek.com)】